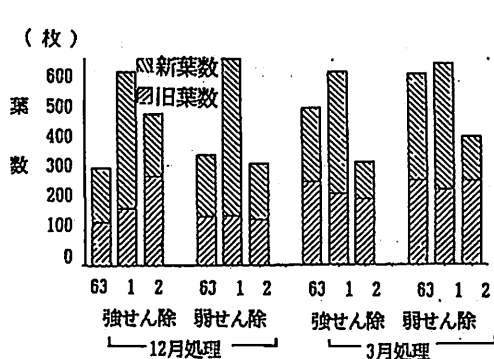


課題名	16 無毒化用優良母樹の探索と保存	分類	③
	カンキツウイルスフリー樹の活力維持方法		
試験研究年次	62 ~ 2年 (繰上げ完了)		
I 目的 鉢植えカンキツ幼木(ウイルスフリーの原々母樹)の根のせん除が、地上部、地下部に及ぼす影響について検討し、コンパクトで健全な状態で保存する方法を明らかにする。			
II 試験方法			
1 供試材料 ウイルスフリー橋本早生(7年生) ウイルスフリー大津4号(7年生) ウイルスフリーミネオラ(7年生)			
2 試験区の構成 根のせん除時期: 2区 根のせん除程度: 2区 1区 3樹			
3 試験処理方法 処理時期 62年12月中旬、63年3月下旬 根のせん除程度 強せん除: 解体前の半分程度の根量にする。 弱せん除: 解体前の1/3程度の根を除去する。 用土の種類 配合土(川砂50%、ピートモス30%、ハートライト20%、過リ酸石灰1,482g/m <sup>3</sup> 苦土石灰2,223g/m <sup>3</sup> 、炭酸741g/m <sup>3</sup> 、硫酸銅83.4g/m <sup>3</sup> 、硫酸亜鉛28g/m <sup>3</sup> 、硫酸マグ24g/m <sup>3</sup> 、その他微量要素) 鉢は、直径25cm、高さ30cmの丸型のビニールポット 肥料は春肥、夏肥として油粕を10g/鉢を施肥 無せん定			
4 調査項目 根群: 大根(10~20mm)、中根(5~10mm)、小根(1~5mm)、細根(直径1mm以下)			
III 主要成果の概要 カンキツウイルスフリー樹をポットで育苗し、活力を長く維持するための根のせん除の時期は、3月下旬より12月中旬の方が落葉や枝枯れの発生が抑えられる。しかし、根のせん除を行うと着花量は多くなるものの結実数は減少する傾向にある。			
1 根のせん除の程度、時期による反応は品種によりやや違うが、せん除することにより樹勢の維持が図られる。			
2 弱せん除は、どの品種においても新葉の発生が強せん除に比較してやや多い。			
3 12月中旬せん除では、強せん除、弱せん除とも、大きな樹勢の低下は認められない。			
4 橋本早生では、3月下旬のせん除処理によって落葉や枝の枯れ込みが見られ、その程度は2~30%である。また、ミネオラでは枯れ込みが認められ、その程度は3~15%である。			

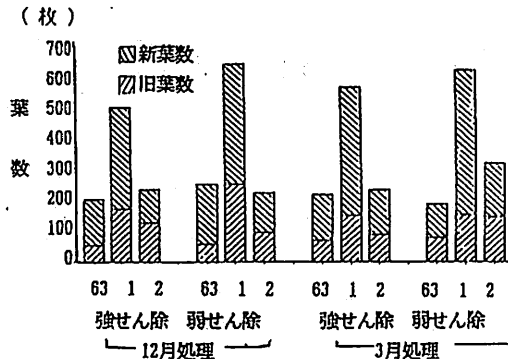
IV 主要成果の具体的データ

第1表 根のせん除程度によるカンキツ苗木の生育差 (2年)

処 理 区	地上部		地下部					全重量
	葉数 (1年枝)	その他 葉数	全重	大根	中根	小根	細根	
	枚	枚	g	g	g	g	g	g
橋本早生								
12月 (強せん除)	179	252	661	45	55	68	305	1,637
(弱せん除)	162	128	454	35	60	52	130	1,290
中 旬 ミネオラ								
(強せん除)	121	144	547	26	42	61	102	1,370
(弱せん除)	114	110	744	31	60	48	204	1,484
大津4号								
(強せん除)	250	145	526	43	91	44	127	1,311
(弱せん除)	409	177	692	32	50	45	220	1,570
橋本早生								
3月 (強せん除)	108	186	532	45	45	50	264	1,179
(弱せん除)	196	240	473	130	50	60	150	1,001
下 旬 ミネオラ								
(強せん除)	165	100	631	94	75	57	205	1,496
(弱せん除)	199	164	673	67	11	66	214	1,586
大津4号								
(強せん除)	203	295	673	66	48	74	302	1,590
(弱せん除)	181	230	376	52	50	50	111	1,249



第1図 橋本早生の葉数の変化



第2図 ミネオラの葉数の変化

V 成果の評価と取扱上の留意点

- 1 ウィルスフリー-原母樹、原原母樹の長期保存に活用できる。
- 2 鉢植えであるため養水分管理に注意する。

VI 今後の研究上の問題点

長期にわたり活力を維持するための管理法

VII 資料名

63, 元年度 福岡県農業総合試験場果樹苗木分場試験成績書